

はじめに

JETプログラム（The Japan Exchange and Teaching Programme）は、総務省、外務省、文部科学省及び一般財団法人自治体国際化協会（CLAIR）の協力の下、外国青年を招致して地方自治体等で任用し、外国語教育の充実と地域の国際交流の推進を図る事業であり、外国語指導助手（ALT）、国際交流員（CIR）、スポーツ国際交流員（SEA）の3種の職種があります。本事例集は、このうち外国語指導助手（ALT）の活動に注目し、公募により収集した事例を取りまとめて紹介するものです。

JETプログラムにより来日したALT（JET-ALT）は、全国各地にある小学校・中学校・高等学校の外国語活動や外国語科の授業等において担当教員の助手として活躍しているほか、地域における国際交流活動にも貢献しています。令和4年度には、JETプログラム参加者総数の9割以上に当たる5,277人のJET-ALTが世界各国から来日し、全国945の任用団体（都道府県及び市区町村等）で活躍しています。

JET-ALTについては、直近では平成19年にCLAIRにより「JET活用マニュアル」が作成されましたが、その後、外国人住民の増加や多国籍化が進行するなど、地域の国際化を巡る状況は大きく変化しています。また、改訂学習指導要領の実施に伴い小学校での英語教育が教科化されたほか、教育現場におけるICTの利活用も進展しています。

そこで、総務省では、この間の上記の変化を踏まえ、現場におけるJET-ALTの現在の取組を把握するとともに、その更なる活用を促進するため、有識者及び関係省庁による「JETプログラム外国語指導助手（JET-ALT）活動事例集作成ワーキンググループ」を設置し、本事例集を作成することとしました。令和5年3月に任用団体からの公募を行い、先進的な事例としてワーキンググループで選定した計30事例を掲載しています。

本事例集が、これからJET-ALTの採用を検討する団体や、JET-ALTの更なる活用を模索している団体、また現場で活動しているJET-ALTの皆さんにご活用いただけることを期待しております。

最後に、本事例集の取りまとめに際し、原稿の執筆、写真等の提供にご協力いただいた各任用団体の皆様に心から感謝申し上げます。